2024 台湾留学報告書

福島県立医科大学　医学部４年　水島　麗

目次

1.　留学の概要
2.　実習先について
3.　実習内容
4.　留学中の生活
5.　留学のまとめ、今後の抱負

1. 留学の概要

私は、福島県立医科大学の交換留学制度を用いて４週間、台湾に留学させていただきました。概要は以下の通りです。私は、夏休みの期間を利用して留学をしました。

留学先：国立台湾大学（National Taiwan University）

期間：２０２４年7月２９日～８月２３日

留学の目的：①外国における臨床実習の経験を積むため。

留学の目的：①外国における臨床実習の経験を積むため。

②台湾での医療を学び福島、日本と比較するため。

③国際交流により、自分の視野を広げるため。

②台湾での医療を学び福島、日本と比較するため。

③国際交流により、自分の視野を広げるため。

2. 実習先について

国立台湾大学（以下 NTU）は、１９２８年、日本の統治時代に創設された旧帝国大学の一つです。１１学部を有する総合大学で、３万人もの学生が通う台湾の中心的な大学です。メインキャンパス、医学部キャンパスはともに台北市内にあります。ＮＴＵの医学部は、国立台湾大学附属病院（以下ＮＴＵＨ）に隣接しています。ＮＴＵＨは、約３０００床を有する台湾の中心的な病院であり、メイン病院のほかに、雲林、北護、金山、新竹、竹東に分院を持っています。ＮＴＵの医学生は、主にこのＮＴＵＨで実習をしており、私たちも、このＮＴＵＨの家庭医学部と救急医療部に２週間ずつお世話になりました。

3. 実習内容について

a. 家庭医学部（7/28~8/9）

私は、家庭医療の役割について、台湾と日本を比較し、学びを深めるために家庭医療部での実習を希望しました。家庭医療部では、主に入院病棟（緩和ケアと家庭・老年医学に分かれていた）、外来診察、訪問医療、地域の診療所で実習を行いました。実習日程は以下の通りです。

・入院病棟

入院病棟では、Morning meeting、Ward round、hospice consultation に参加しました。Morning meeting では、症例報告や勉強会などを、学生から PGY、レジデントの方々によって行われていました。また、病棟

には来られない外部の先生もオンラインで参加されており活発な話し合いが行われていました。Ward round では、professor 一人に対し学生から PGY、resident が５～６人ついて回り、患者に関する discussion の後、病室を訪れて診察をしていました。中には、３０分以上、患者や患者話に費やす場合もあり、丁寧な診察が行われていて驚きました。Hosipice consultation では、家庭医療部外の患者の主治医が患者に、ホスピスへ移動する提案をする際に同席し、患者や患者家族の説得を手伝っていました。

・外来診察

外来診察は、一般診療、旅行診療、検査部に分かれていました。一般診療では、癌治療後のフォローアップ、高齢者で複数の科にまたがって治療を受けている患者の総合診療によるケアや処方薬の管理、喫煙外来などが行われており、曜日によって設置されている外来の種類が異なっていました。旅行診療では、主に海外渡航前のワクチン接種や渡航後の体調不良を扱っていました。検査部では、主にがん治療後のフォローアップ患者の検査を行っていました。

・訪問診療

ＮＴＵでは、医師と看護師による訪問診療が行われていました。私たちは午前中の訪問診療（二件）を見学しました。どちらも末期がん患者で、自宅で緩和ケアを受けていました。訪問診療では、患者の様態の確認と簡単な処置、介護者からの最近の患者の様子の聞き取り、処方内容が適切かどうかのチェック、必要なら入院の準備などを行っていました。また、訪れた家庭には、caregiver が雇われており、主な介護はその方々によって行われていたのが印象的でした。多くは東南アジアなどからの外国人労働者でほぼ家族のような関係性でした。

・地域の診療所

地域の診療所は、日本の診療所と同じような位置づけで、患者の数はとても多かったです。主な病気は CKD や糖尿病などの慢性病患者か風邪や腹痛など軽い症状の患者でした。

b.救急医療部(8/12~8/23)

救急医療部では、日本と台湾における救急医療の役割を比較する事、また災害に対する医療における二国間の比較を行う目的で希望しました。

救急医療部では、主に ICU の見学、外来の見学、学外で行われる活動への参加をしました。

・ICU

重症患者エリアと外傷エリアに分かれており常時医師や看護師が患者のバイタルサインを確認していました。また、メンバーの中には救命救急士の方もいました。救急外来とは違い、患者数は多くなく比較的質の高い医療が提供されているように感じました。外来には、少し体調が悪い患者や、病態が急変した患者など何か体調に異変を感じた患者が来ており、患者の疾患の幅は広く、また患者数も日本とは比較できないくらい多かったです。

・病院外の活動

まず、ひとつ目は、花蓮という今年の４月に地震のあった被災地を訪れました。現地で活動している DMAT の方に貴重な体験談を伺い、一緒に被災した地域を見て回りました。花蓮は観光産業が中心なので、風評被害による産業への打撃が大きいようでした。二つ目に、台湾の核中央管理センターを訪問しました。ここでは台湾全土の放射性物質濃度と国内の原子力発電所の管理を２４時間行っていました。また、同時に核による攻撃など戦争も視野に入れて仕事をされているのに驚きました。三つ目に、基隆という都市を訪れました。ここは、台湾の島の北に位置しており日本統治下では貿易、国防の中心として機能していたようです。基隆病院では、火災発生時の訓練と院内の防火装置の評価を見学しました。四つ目に、台湾における災害への備えと日本の震災に関する講演会に参加しました。台湾では、自然災害以上に、戦争での化学災害などに重点を置いていました。五つ目に、屏東という都市を訪問し、DMAT 研修に参加しました。研修では、現地の看護師とともに、無線の使い方、止血の仕方、トリアージの仕方、災害時のマネジメントの仕方を学び、最後にテロをシュミレーションした訓練を行いました。とても現実味のある訓練でとても良いと思いました。六つ目に、宜蘭という都市を訪れ、病院の火災訓練を観察しました。前回に参加したときの知識を踏まえて臨めたのでとても理解が深まりました。最後に、台南の白河とういう地域で行われた訓練を見学しました。この訓練では、被災地にいるチームと行政のチームのコミュニケーションに力を入れており、とても具体的

な内容でした。

4. 留学中の生活

大学の寮を使うことができなかったので、大学から歩いて１０分のところにあるホテルに宿泊しました。ホテルは大学病院と西門の間に位置していました。ホテルなので毎日清掃が入ったり、アメニティや必要な設備などは整っていたのでとても生活しやすかったです。立地も大学病院まで歩いて行け、台北駅や飲食店も近くに多かったので生活には困りませんでした。キッチンなどはなかったので基本３食外で食べましたが飲食店が多く問題ありませんした。

病院で実習を行う日は、朝、近くの朝食屋さんでテイクアウトをして大学のベンチで朝ご飯を食べることが多かったです。いろいろな朝食屋さんがありましたが私のお気に入りは、台湾式おにぎり屋です。具材がたくさん入っており朝ごはんにぴったりでした。お昼ご飯は、大学にある食堂を利用していました。お店の種類が豊富で、毎日飽きません。私のお気に入りは好きなおかずを詰めて重さで値段が決まるお弁当です。

学外での活動の日は、朝からバスや MRT、高速鉄道などを使って先生と一緒に移動しました。高雄という街に実習に行った際には、現地で数日宿泊しました。ただ、台湾内は公共機関が便利で基本日帰りで帰ってこられるのでとてもよかったです。

休日や放課後は、夜ご飯を交換留学生として福島に来ていた友達やお世話になった PGY、レジデント、教授と食べたり、教授や知り合いの方々にいろいろな観光地に連れて行ってもらったりしました。おかげで、台湾の島の北から南まで連れて行ってもらい台北以外の街の雰囲気を知れたのもいい経験となりました。

5. 留学のまとめ、今後の抱負

まず、このような充実した一か月を過ごすことを可能にしてくださったＮＴＵの先生方、ＮＴＵとの交換留学を実現してくださった福島県立医科大学の先生や企画財務課、台湾で私たちを歓迎してくださったすべての方々に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。準備の段階から、たくさんの方々の協力を経て今回の留学が実現しました。また、一緒に留学に行ってくれた馬場さんには、準備・実習期間中本当にお世話になりま

した。お互い初めての留学で不安なことも多かったですが、支えあいながら無事帰国できたことに安心しています。

今回の留学で学べた事は三つあります。一つ目は、積極的に参加する事の大切さです。留学中は基本、やってみたいと伝えると先生たちがどんどん参加させてくれました。はじめは、中国語も全くわからないし不安だからと思って、迷ってしまう場面もありましたが、まずはチャレンジしてみようと思う事はとても大切だと改めて感じました。実際、予定していた以上の活動に参加することができより充実した時間を過ごせました。二つ目は、英語の大切さです。台湾の病院では主に中国語、一部台湾語を用いて診療が行われており、先生方に英語で内容を要約していただく機会が多かったです。医学を英語で学んだことはなかったのでとても理解するのが難しく、夜にわからなかった単語を調べて教えてもらったことを理解するという事が何度もありました。もし将来海外での勉強などを本格的に行うのであれば、自分の英語能力をもっと磨く必要があると感じました。三つ目は、留学の面白さです。留学をすることでその国の生活や考え方、文化など多くを学ぶことができました。こんなに地理的にも近い国なのに、その差は大きく毎日たくさんのことに驚かされました。日本では当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったり、重要視する部分が異なっていたりなど、幅広い考え方を学べました。

今後の抱負としては、日本での経験を積んだ後に、もう一度このような経験をしたいと考えています。日本での実習を積み、もっといろいろな知識や経験を得たうえで留学をしてみたいと思いました。そのためには、日本での勉強を怠らないことに加え、英語の勉強を行うことで、今回以上に多くのものを得られるように準備したいと思います。